

# 建設のプロに防災学ぶ 三次青陵高で講演会



加藤社長（奥左端）から災害支援の経験などを聞く生徒たち

三次市大田幸町の三次青陵高で、防災をテーマにした講演会があった。1年生70人が、市内の建設会社加藤組の加藤修司社長（59）から安全な暮らしを支えるまちづくりや進歩する土木技術について学んだ。

加藤社長は、市中心部が浸水した1972年の「47水害」を振り返り、その後進んだ河川堤防の強化などを説明。三つの川が合流する市街地は水害の危険性が高い地域のひとつとし「わがまちを知ってほしい。行政や市民、建設業者が一致団結して普段から訓練や備えをする必要がある」と力を込めた。東日本大震災などの被災地支援に携わった経験も紹介した。

人手不足の中、同社が導入している3Dデータの活用など建設のデジタル化も解説。「男性中心の業界だが、この先は女性の技術者の参画も大切になる」と期待した。

講演会は「産業社会と人間」の授業の一環。林葵輝さん（15）は「防災や災害支援の幅広い取り組みを知ることができた。もっと知識や技術を身に付けたい」と話した。（林淳一郎）